

引渡金」會振より其の借費を受付式の事ヲ謝辞并出稼其の謝  
 當謝人夫半樂某（藤田藤根）同謝味子半正員半樂中五年の謝  
 十、同 慶 主 風 因  
 此、同 謝 次 半 日 同 平 四 月 十 一 日  
 八、年 謝 慶 主 半 日 同 謝 味 十 半 三 月 三 十 一 日  
 六、年 謝 慶 主 人 員 二 〇 〇 名（内 謝 工 子 〇 名）  
 五、外 謝 慶 主 答 謝 當 謝 味 謝 慶 工 謝 慶 八 百 公 平  
 四、資 本 金 壹 千 萬 圓  
 三、年 樂 の 謝 慶 對 謝 子 嬰 童  
 二、同 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主  
 一、同 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主  
 日本 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主  
 日本 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主 謝 慶 主

法人謝賜會福岡出張所

法人謝賜會福岡出張所

になつてゐたところ、之れが會社側との交渉を今回更生日本勞  
 愛會會長柴田專兵衛に一任し同人より扶助料の請求があつたの  
 で、會社側では勞働組合に依頼したるを不都合なりとし三月十  
 九日右手柴某に對し解雇豫告をした爲之れを憤慨した柴田會長  
 は更に同月二十五日扶助料（金五拾圓二拾五錢）並に退職手當  
 （金七拾貳圓九拾錢）の要求をなしたるに會社側では扶助料の  
 請求は容れたるも退職手當の要求は之れを拒絶した。  
 然るに柴田會長は之れに満足せず尙其の要求を經續嚴談するも  
 ので會社側は三月三十一日會見回答終し當日會社事務所に於て  
 工場長に代り田中勞務主任と會見し回答を迫つたが要領を得な  
 いので豫ねて準備しゐたる一般従業員の待遇問題に關する次の  
 要求書を提出押問答中（同日午前十時半頃）其の回答如何を待  
 ちつあつた従業員約二百名は突如汽笛を合圖に發電所に押し寄